

題材デザイン FIRST STEP ―中学校美術科 表現編―

PDCA サイクルを意識した授業改善 R7 版

1 PDCAサイクルを意識した題材デザインについて

- 題材デザインは、学習指導要領に示された資質・能力の育成を目指し、指導と評価の一体化を図るための重要なプロセスです。
- PDCAサイクルにおけるPlanの段階として、題材を通して育成する資質・能力を明確にし、指導と評価の計画を作成することが重要です。
- さらに、PDCAサイクルを意識した授業改善において、CheckとActionの段階で得られた学習成果や課題の振り返りを次のPlanへ反映させることで、より質の高い題材デザインにつなげることができます。



2 題材デザインの手順

はじめに…美術科の内容の構成、各学校で作成した年間指導計画で取り扱う内容を確認します。



Step1 育成を目指す資質・能力を明確にし、**題材の目標を設定**します。

Step2 Step1を踏まえ、**題材の評価規準及び題材の指導と評価の計画を作成**します。

3 題材デザインの具体 第1学年 A表現 「文字のデザイン ～わたしの一文字」

はじめに…美術科の内容の構成、各学校で作成した年間指導計画で取り扱う内容を確認します。

□ 題材と関連する「内容のまとまり」を踏まえ、題材の内容の構成を確認します。

※参考：【中学校美術科における「内容のまとまり」】

絵や彫刻など	「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」	「A表現」(1) ア、(2)、〔共通事項〕
デザインや工芸など	「目的や機能などを考えた表現」	「A表現」(1) イ、(2)、〔共通事項〕
鑑賞	「作品や美術文化などの鑑賞」	「B鑑賞」、〔共通事項〕

□ 各学校で作成した年間指導計画で取り扱う内容を確認します。

Step1 育成を目指す資質・能力を明確にし、**題材の目標を設定**します。

□ 育成を目指す資質・能力を明確にします。

・育成を目指す資質・能力は、「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 美術編（以下、学習指導要領解説）」の指導事項を確認します。

第1学年 「A表現」 (1)
イ 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
(1) 伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容などから主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどとの調和を考え、表現の構想を練ること。
第1学年 「A表現」 (2)
ア 発想や構想をしたことなどを基に、表現する活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
(7) 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すこと。
(4) 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表すこと。
第1学年 「B鑑賞」 (1)
ア 美術作品などの見方や感じ方を広げる活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
(4) 目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。
〔共通事項〕 (1)
ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。
イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

□ 育成を目指す資質・能力を基に、生徒の実態、既習事項等を踏まえながら、題材の目標を設定します。

生徒の実態

自分の考えを表現したり、テーマを基に発想したりすることを苦手とする傾向がある。
ポスターカラーの使い方にまだ慣れていないところがあるな。

既習事項

これまでに校内のスケッチやレタリング、色の学習に取り組んできた。また、中学校から使うポスターカラーに慣れるために、平塗りを作品で生かしたい。

造形的な視点

文字の形や文字の意味の視点から発想を広げられるようにしたい。また、文字の意味や作品の主題から色彩へも発想を広げ、配色を考えられるようにしたい。

題材の目標

- (1) 「知識及び技能」に関する題材の目標
- ・文字や文字が意味するものの形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解する。〔〔共通事項〕〕
 - ・意図に応じて表現方法を工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表す。〔「A表現」(2)〕
- (2) 「思考力、判断力、表現力等」に関する題材の目標
- ・文字の意味や全体のイメージを基に、伝える相手や場面などから主題を生み出し、分かりやすさと形や色彩などとの調和を考え、表現の構想を練る。〔「A表現」(1)〕
 - ・文字の意味と分かりやすさとの調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。〔「B鑑賞」(1)〕
- (3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する題材の目標
- ・美術の創造活動の喜びを味わい、意味と分かりやすさの調和のとれた文字を表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。

Step2 Step1を踏まえ、**題材の評価規準及び題材の指導と評価の計画を作成**します。

□ 題材の評価規準を作成します。

・『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」の巻末に示された、「中学校美術科における『内容のまとまりごとの評価規準（例）』」を参考に作成します。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 文字や文字が意味するものの形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。 技 意図に応じて表現方法を工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表している。	発 文字の意味や全体のイメージを基に、伝える相手や場面などから主題を生み出し、分かりやすさと形や色彩などとの調和を考え、表現の構想を練っている。 鑑 文字の意味と分かりやすさとの調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	態表 美術の創造活動の喜びを味わい、文字の意味と分かりやすさ、形や色彩などとの調和のとれた文字のデザインについて、伝える相手や場面を考えて構想を練り、意図に応じて工夫し見通しをもって表す表現の学習活動に取り組もうとしている。 態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい、文字の意味と分かりやすさ、形や色彩などとの調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

→詳しくは、佐賀県教育センターWeb「学習評価の進め方」pp.3-4、「令和4年度プロジェクト研究 授業改善サポートQ&A Q8」、国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」巻末資料参照

□ 題材の指導と評価の計画を作成します。

- ・題材の目標及び評価規準を踏まえ、次※1あるいは1単位時間ごとに設定した学習のねらいに沿って、学習活動を構想します。
- ・題材の目標及び評価規準を踏まえ、題材のどの段階で、どの評価規準を通して評価するかを決定します。
- ・どのような評価資料（活動の様子、ワークシート、作品など）を基に評価するか、具体的に考えます。
- ・1単位時間の授業や題材で得られた振り返りや課題を踏まえ、次時や次題材のPlanへ反映させるようにします。

※1 同じ質の活動のまとまりを「次^②」と言います。指導と評価においては、題材によって、次ごとに捉えていくこともあれば、1単位時間で捉えていくこともあります。

題材の指導と評価の計画

→詳しくは、佐賀県教育センターWeb「[学習指導プラン](#)」p.2参照

・題材の目標及び評価規準を踏まえ、次あるいは1単位時間ごとに設定した学習のねらいに沿って、学習活動を構想します。

学習活動を構想する際は、以下の点を踏まえて考えましょう。

□学習のねらいを明確にします。

□目的を明確にした、美術の創造活動※2を伴った学習活動を設定します。

□生徒の興味・関心を引き出し、見通しをもつことができるようにするために、題材の導入の工夫をします。

→詳しくは佐賀県教育センターWeb「[授業改善サポート Q&A](#)」Q.4参照

□生徒が対象や事象を造形的な視点で捉える学習活動を設定します。

→詳しくは佐賀県教育センターWeb「[造形的な見方・考え方について](#)」参照

□学習内容や学習活動に応じて、学習形態や場の設定などの工夫をします。

→詳しくは佐賀県教育センターWeb「[授業改善サポート Q&A](#)」Q.6、Q.7参照

□学習のねらいに沿った振り返りを行う学習活動を設定します。

※2 **美術の創造活動**には、生徒一人一人が自分の心情や考えを生き生きとイメージし、それを造形的に具現化する**表現の活動**と、表現されたものや自然の造形などを自分の目や体で直接捉え、よさや美しさなどを主體的に感じ取り、作者の心情や美術文化などについて考えるなどして見方や感じ方を深める**鑑賞の活動**があります。

文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 美術編」pp.9-10

●学習のねらい・学習活動	知	感	思	態	評価方法・留意点等
1. 鑑賞（1時間） ●広告や新聞等の見出しや本文の文字に注目し、文字の形や色彩などの違いによって、どのような印象を受けるかについて考える。 ・新聞の記事や広告等の見出し、本文の文字に注目し、伝達のデザインの意味や表現の工夫などについて形や分かりやすさなどの視点から感じたことや考えたことなどの意見を述べ合う。 ・私たちの学校について、そのイメージを表す文字の形と色彩を用いて、1人1台端末を活用して表現する。その文字の形と色彩で表した理由を述べ合う。	知 ↓	感 ↓	思 ↓	態 ↓	因 造形的な特徴に着目して、伝達のデザインにおける分かりやすさについて理解しているかどうかを見取り、できていない生徒に対して、 広告や新聞等の見出しを例に、文字の形や色彩などが与える効果を具体的に示しながら指導を行う。 【発言の内容、ワークシート】 因 見出しや本文について、文字の形や色彩などの違いによる表現の意図と工夫などについて考えているかを見取り、見方や感じ方を広げることができていない生徒に対して、 視点を確認して鑑賞するように指導を行う。 【発言の内容、ワークシート】 態 鑑賞のデザインに興味や関心を持ち、形や色彩などの性質を理解しようとして、調和のとれた美しさを感じ取ろうとして、表現の意図や工夫について考えようとしているかを見取り、できていない生徒に対して、 身近な伝達のデザインを紹介して、どのような印象をもつことができるように指導を行う。 【活動の様子、ワークシート】
2. 発想（1時間） ●発想を広げ、主題を生み出す。 ・自分が選択した文字について、その文字の意味を調べる。 ・選択した文字の意味から連想するものを、思考ツール（マインドマップ）を用いて書き出す。 ・グループで各自の思考ツール（マインドマップ）を見せ合い、ほかにも連想するものに関して意見を述べ合う。			発 ↓	態 ↓	因 文字の意味やその文字から連想するものを基に、主題を生み出そうとしているかどうかを見取り、 主題を生み出すことができていない生徒に対して、1人1台端末を活用して文字について調べよう に促すなどの指導を行う。【ワークシート（マインドマップ）】 態 発想主題を生み出そうとする態度を見取り、主体的に活動できていない生徒に対して、 鑑賞の学習で内容について振り返るよう促したり、他者の思考ツール（マインドマップ）を参考にして発想を広げるよう促したりするなどの指導を行う。 【活動の様子】
3. 発想、主題設定（1時間） ●発想を前時のものから広げ、主題を生み出す。 ・前時に選択した文字の意味から連想するものを更に広げる。 ・思考ツール（マインドマップ）に表した連想するものを簡単にイラストで描き表す。 ・文字絵の主題を生み出す。 ・生み出した主題を基に、文字の点画にその文字の意味やその文字の意味から連想するものを組み合わせながら、構想を練る。 ・主題をグループで紹介し合い、それぞれの考えを知る。			発 ↓	態 ↓	因 文字の意味やその文字の意味から連想するものを基に、主題を生み出そうとしているかどうかを暫定的に評価する。【ワークシート（マインドマップ）】 態 発想主題を生み出そうとする態度を見取り、主体的に活動できていない生徒に対して、 鑑賞の学習で内容について振り返るよう促したり、他者の思考ツール（マインドマップ）を参考にして連想するものを広げようとするなどの指導を行う。 【活動の様子】 因 文字の意味やその文字の意味から連想するものを基に、主題を生み出そうとしているかどうかを暫定的に評価する。【ワークシート（マインドマップ）】 態 発想主題的に知識を活用しながら、主題を生み出す学習活動に取り組みようとする態度を評価する。【活動の様子、ワークシート（マインドマップ）】
6. 鑑賞（1時間） ●生徒作品を鑑賞し、伝達のデザインについての見方や感じ方を広げる。 ・完成した作品を互いに鑑賞し、作品から感じたことや考えたことを説明し合い、主題と表現の関係や、意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げる。	知 ↓	感 ↓	思 ↓	態 ↓	因 形や色彩などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しているかどうかを見取り、できていない生徒に対して、 具体例を示すなどの指導を行う。 【発言の内容、ワークシート】 態 鑑賞作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情の表現の意図と工夫などについて考えるかどうかなど、取り組む態度とをそれぞれ見取り、できていない生徒に対して、 主題から作品を見つめたり、作者の心情について考えたりすることができるように促すなどの指導を行う。 【活動の様子、ワークシート】 態 鑑賞主体的に作品を鑑賞し、形や色彩などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし、造形的なよさや美しさを感じ取ろうとして、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えようとしている態度を評価する。【活動の様子】
〈授業外：題材が終了後〉	知 ↓	感 ↓	思 ↓	態 ↓	因 ・現完成作品や表現及び鑑賞のワークシートなどから 因 ・現の評価を再確認し、必要に応じて修正する。【完成作品、ワークシート】 因 作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方が広がっているかどうかをワークシートで見取り評価する。【ワークシート】 因 発想や構想について、主題や構想の工夫などを記述したワークシート等を完成作品と併せて、再度見取り、必要に応じて修正する。【完成作品、ワークシート】

・題材の目標及び評価規準を踏まえ、題材のどの段階で、どの評価規準を通して評価するかを決定します。

・どのような評価資料【活動の様子、ワークシート、作品など】を基に評価するか、具体的に考えます。

生徒の学習の実現状況を見取り、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげるために用いる**指導に生かす評価**と、題材の観点別学習状況の評価の総括に用いる**記録に残す評価**について、題材のどの段階で、どの評価規準を通して、どのような評価方法で評価するかを考えます。

→詳しくは、佐賀県教育センターWeb「[学習評価の進め方](#)」p.4、p.21参照

どのような評価資料を基に、おおむね満足できる状況(B)と評価するかを考えたり、**努力を要する状況(C)**への指導の手立て等を考えたりします。

→詳しくは、佐賀県教育センターWeb「[学習指導プラン](#)」参照

Plus
+ 鑑賞の学習の位置付けについて

資質・能力の育成のために、表現と鑑賞との関連を考え、学習の充実を図ることが大切です。また、鑑賞の学習は十分な授業時数の下で行いましょう。

【表現と鑑賞の関連を考えた題材の例①（全7時）】

第一次 発想や構想（第1時～第3時）	「A表現」（1）、【共通事項】
※発想や構想に関する学習を深めるために、第1時に鑑賞の学習活動を位置付けます。	
第二次 制作（第4時～第6時）	「A表現」（2）、【共通事項】
第三次 鑑賞（第7時）	「B鑑賞」、【共通事項】

【表現と鑑賞の関連を考えた題材の例②（全7時）】

第一次 鑑賞（第1時）	「B鑑賞」、【共通事項】
第二次 発想や構想（第2時～第4時）	「A表現」（1）、【共通事項】
第三次 制作（第5時～第6時）	「A表現」（2）、【共通事項】
第四次 鑑賞（第7時）	「B鑑賞」、【共通事項】

【鑑賞を充実させるための題材の例（全2時）】

第一次 鑑賞（第1時）	「B鑑賞」、【共通事項】
第二次 鑑賞（第2時）	「B鑑賞」、【共通事項】

※鑑賞の学習は年間指導計画の中に適切に位置付けることが大切です。年間指導計画を作成する段階で、鑑賞と表現との関連を考えて鑑賞の指導を位置付けたり、ねらいに応じて独立した鑑賞を適切に設けたりするなど指導計画を工夫しましょう。